平成 30 年度シラバス　　学番５８　新潟県立十日町高等学校

| 教科名 | 科目名 | 学科・学年・類型 | 単位数 |
|---|---|---|---|
| 理科 | 化学基礎 | 普通科・１学年 | 2 |
| 教科書<br>副教材等 | ［主たる教材］改訂版新編化学基礎（数研出版）<br>［副教材］　六訂版　スクエア最新図説化学（第一学習社）<br>必修アクセス化学基礎（浜島書店） | | |

## 1　学習目標

正しい物質観を育て、人間生活において物質を正しく利用する能力を育てる。
これからの社会の安全の為に、万人にとって必要とされている化学の正しい素養を育てる。

## 2　指導の重点

中学理科からの移行をスムーズに行うために、

① 基礎知識の定着に重点をおいた指導をしていきます。

② 教科書の内容の確実な習得の為に、授業プリント等の充実を図っていきます。

③ できるだけ実験観察を多く取り入れて、化学に関する興味・関心を高めます。また、副教材を最大限に利用して、私たちの身の回りに生きている化学についても触れていきます。

## 3　学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 学習活動(指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|
| 4月～5月 | 第１編　物質の構成と化学結合 | 教科書<br>副教材<br>プリント | １章　物質の構成<br>①混合物と純物質<br>②物質とその成分<br>③物質の三態と熱運動<br>２章　物質の構成粒子<br>①原子とその構造<br>②イオン<br>③周期表<br>○１学期中間考査 | 9 | 授業取組<br>小テスト<br>提出物<br>定期考査 |
| 5月～7月 | 第２編　物質の変化 | 教科書<br>副教材<br>プリント | ３章　粒子の結合<br>①イオン結合とイオンからなる物質<br>②分子と共有結合<br>③分子の極性<br>④共有結合の物質<br>⑤金属結合と金属<br>１章　物質量と化学反応式<br>①原子量・分子量・式量<br>○１学期期末考査 | 12 | 授業取組<br>小テスト<br>提出物<br>定期考査 |
| 7月～10月 | | 教科書<br>副教材<br>プリント | ○夏季休業中の課題テスト<br>①原子量・分子量・式量<br>②物質量<br>③溶液の濃度<br>④化学反応式と物質量<br>２章　酸と塩基の反応<br>①酸・塩基<br>○２学期中間考査 | 13 | 課題テスト<br>授業取組<br>小テスト<br>提出物<br>定期考査 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 10<br>月<br>～<br>11<br>月 | | 教科書<br>副教材<br>プリント | ②水の電離と水溶液の pH<br>③中和反応<br>※中和滴定実験<br>④塩<br>○２学期期末考査 | 12 | 授業取組<br>実験の技能<br>小テスト<br>提出物<br>定期考査 |
| 12<br>月<br>～<br>3<br>月 | | 冬休み課題<br>教科書<br>副教材<br>プリント | ３章　酸化還元反応<br>①酸化と還元<br>（冬休み課題）１章の復習<br>原子量・分子量・式量<br>物質量<br>溶液の濃度<br>化学反応式と物質量<br>②酸化剤と還元剤<br>③金属の酸化還元反応<br>④酸化還元反応の利用<br>－電池・金属の製錬－<br>○学年末考査 | 18 | 授業取組<br>小テスト<br>提出物<br>定期考査 |

計 64 時間（55 分授業）

## 4　課題･提出物等

・元素記号と周期表，化学式などの暗記
・長期休業中の課題
・長期休業中の課題テスト
・実験レポート

## 5　評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

| （関心･意欲･態度） | （思考･判断･表現）（技能） | | （知識･理解） |
|---|---|---|---|
| 関心･意欲･態度 | 思考･判断･表現 | 観察・実験の技能 | 知識･理解 |
| 物質や化学反応に対する関心を高め、進んで理解・探求しようとしている。 | 物質や化学反応に対して化学的な思考・判断をしている。また、導き出した考えを的確に表現している。 | 化学実験を行うための基本的操作や安全対策、実験方法を習得し、その過程や結果を的確に記録・整理している。 | 化学物質や化学反応についての基本的な概念や原理・法則を理解している。 |

以上の観点を踏まえ、
・授業への参加状況
・課題提出状況　実験レポートの内容
・定期考査　課題テスト　小テスト
・行動観察による机間指導　個別指導
・質問に対する発言の内容
などから総合的に評価します以上の観点を踏まえ、

## 6　担当者からの一言

私たちの日常生活は、数多くの物質・数多くの化学反応の元に成り立っています。一見難しそうな化学式や化学反応を学び理解することによって、日常生活に生きている化学を体系的に表現することができます。化学の学習を進めることによって、人間生活において物質を正しく使用し有意義に利用していくことが大切であることを理解し、将来そのようなことができるようになるための下地を作って欲しいと我々は願っています。　（担当　目黒　靖子）